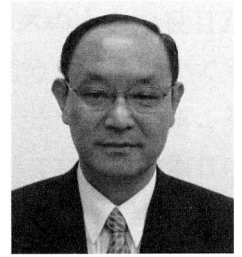


「物流散歩道」

苦瀬 博 仁
東京海洋大学 理事 副学長



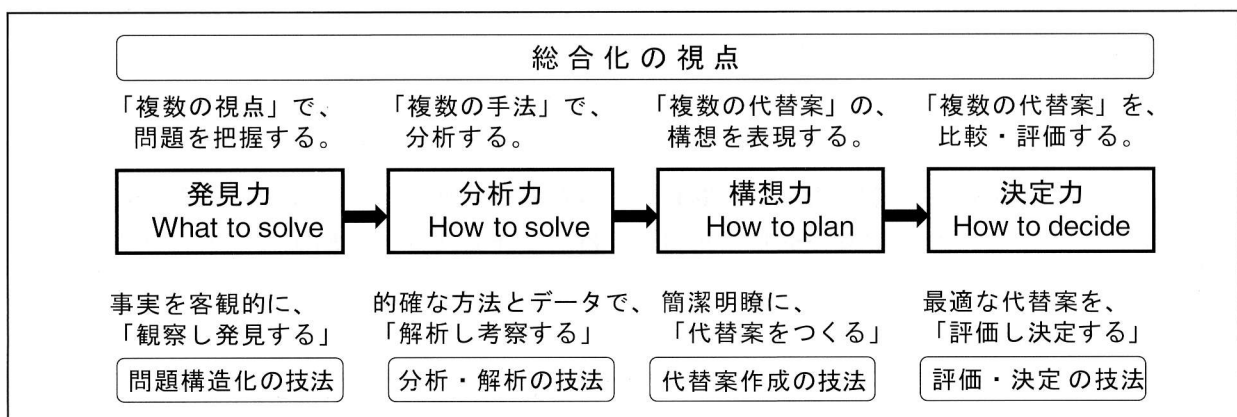
物流散歩道、今回はわが国ロジスティクス研究の第一人者として、国際的にご活躍の東京海洋大学の苦瀬先生をお訪ねしました。ざっくばらんで、優しいお人柄にすっかりファンになってしまいました。

「ロジスティクスの分析技法と総合化の視点」

大学に勤めて 23 年がたちました。その前には民間企業にいたのですが、大学という小さな窓から社会を見ることに慣れてしまい、偏った見方に陥ることもあります。これを承知の上で、杞憂であることを願いつつ、最近思うことを書いてみたいと思います。

第 1 は、「ロジスティクスの分析技術」です。ご承知のように、在庫管理や運行計画のソフトウェアでは、応用数学をベースにした最適化問題などは必須です。また需要予測などの統計手法も、販売や調達には不可欠でしょう。ロジスティクスが、さまざまな要素からなるシステムであるからこそ、システム工学の学問成果を取り入れたいものです。そこには数学を含めて多くのシステム技法がありますが、これらの技法をロジスティクスの現場や管理の分野で積極的に利用していく必要があると思っています。誤解を恐れずに例をあげるならば、システム技法を用いた在庫理論や経路探索モデルと、実務での在庫管理や運行計画の間にある隔たりを、もっと埋めていく努力が必要だと思っております。

第 2 に、「ロジスティクスの総合化技術」です。1 年半ほど前にロジスティクスの管理とオペレーションの本を監修したとき、「こんなにも知らないことがあったのか」と恥じ入りながら、また「このような分野にも技術があるのか」を驚きつつ、監修・校正を進めたものでした。そしてロジスティクスを構成する多くの要素のそれぞれに分析技術が必要であるとともに、それらを総合化して束ねる技術も必要と痛感しました。それこそが、「全体最適」を実現する近道でもあると思うのです。



第二次世界大戦でシステム技法のひとつである OR（オペレーションズ・リサーチ）が発達し、これがビジネス・ロジスティクスに取り入れられてきました。そして IT 技術が進めば進むほど、ロジスティクスの要素技術は進化が求められ、一方では全体を束ねる総合化技術も必要となることでしょう。

我が国のロジスティクスを担っている物流技術管理士の皆様だからこそ、システム技法へのより深い理解と、総合化する技術の確立の両方を期待しています。

以上